

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577100385		
法人名	有限会社 ひまわり		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143 - 25		
自己評価作成日	平成22年5月24日	評価結果市町受理日	平成22年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々の尊厳を大切にしたい、心のこもったサービスを心がけています。「みんなで幸せになりましょう。そして地域とともに元気になりましょう。」を理念に掲げて目標にしながら日々幸せに、そして穏やかに過ごせるよう支援しています。日々の暮らしの中で利用者と一緒に作った弁当を持って季節の花々を見に出かけたり、自然にふれるなどの楽しみや気晴らしをしています。また利用者は地域へ足を運ぶ機会も多く、地域の出来事に関心を寄せながら生活しています。そしてホームでの生活の様子は広報にして発信し、地域と結びついた生活が送られるよう支援しています。また、ホーム内はアットホームで明るく、清潔な空間作りを心がけています。利用者の個性を尊重し、これまでの生活歴に沿った生活が送れるよう個々のペースにあわせた時間を過ごしていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の栄養士が立てた栄養バランスのとれた献立を活用して、三食とも事業所で食事づくりをされています。利用者も職員と一緒に調理、配膳、下膳、後片づけなど一人ひとりができる事をしてもらえ、職員も食事を一緒に食べながら会話し、食事が楽しめるように支援されています。おやつ作りや山菜採り、利用者と一緒に作った弁当を持って花見に出かけたり、イベントの料理の献立を利用者と一緒に考え、食材の買い物、調理をされるなど、楽しみや張り合いのある暮らしができるよう支援しております。天気の良い日には散歩に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり、小学校の運動会、地域の文化祭、図書館近くのスーパーなどで地域の人と交流されたり、入居前に暮らしておられた地域に出かけて、地域の人との関係が途切れないよう取り組まれています。入浴は午前、午後と、利用者の希望にそって行われています。入浴時は利用者と職員が1対1となり、利用者が自分の気持ちを話されることが多く、思いや意向の把握に繋がっております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年6月11日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
東棟	1	(1) 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とともに歩むグループホームとしての理念も組み込み、ミーティングでも共有して実現に向けてケアの統一を図り取り組んでいる。	全職員が意見を出し合い「みんなで幸せになりましょう。そして地域とともに元気になりましょう」という事業所独自の理念をつくっている。理念を玄関に掲示し、ミーティングで確認して共有し、実践につなげて利用者が穏やかに暮らせるように支援している。	
西棟	1	(1) 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、月一回のミーティングにおいて理念の再確認を行い、理念に基づいた日常業務を行なっている。		
東棟	2	(2) 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をして顔なじみになっている。また子供連れで回覧板を持ってきてくれることもあり、近所の人とふれあう機会が多い。	小学校の運動会(踊りに参加)、地域の文化祭などへの参加、図書館や近くのスーパー、病院受診時などで地域の人々と交流している。天気の良い日は散歩に出かけ、近隣の人と挨拶を交わし、顔なじみになっている。地域向け事業所だよりを年2回発行し、地域に配布したり、隣家の人が子供と一緒に回覧板を持参してくれるなど、地域との関わりが深まるように取り組んでいる。	
西棟	2	(2) 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩での挨拶、回覧板の受け渡し、近くの小学校の行事(運動会等)への参加、町主催の文化祭への参加等を行なっている。また、地域向けホームだよりを年2回発行し、地元の人々と交流に努める。		
東棟	3	事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つような取り組みの実践には至っていないが、地域向け通信の一口コラムなどでも認知症についてふれ、認知症ケアの啓発に努めている。		
西棟	3	事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問など、GHが地域の人々を受け入れる際に、認知症について、また対処の仕方等の説明を行なっている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義については、ミーティングで周知、理解している。外部評価結果はミーティングで報告して、できることから改善に向けて実践につなげる努力をしている。	評価の意義については、全職員が理解している。各ユニット毎で自己評価に取り組み、全職員が分担して記入し、計画作成担当者、管理者がまとめて、それぞれの自己評価を作成している。自己評価する中で、反省点を見つけて改善に繋げる努力をしている。外部評価結果についてはミーティングで改善に向けての検討をしている。	
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義についてはミーティングで周知、理解し、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて努力、実践している。		
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームからの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受けてサービスに活かしている。これまでも評価結果の懸案事項についても相談し、意見をもらっている。	民生委員、地域包括支援センター職員、自治会長、地域住民代表、他グループホームの管理者、家族、代表者、施設長、管理者、職員等が参加して2ヶ月に1回開催している。状況報告、事故報告、活動報告(事業所だよりを配布)などをして、参加者と意見交換している。前回の外部評価結果での課題について相談し、助言を得るなど、意見をサービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、民生委員、地域包括支援センター職員、自治会長、地域住民代表、運営者、施設長、職員等の参加を受け、2ヶ月に一回開催している。ホーム便りを参考に活動報告等を報告し、意見、要望を伺い、質の向上につなげている。		
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の都度、相談したり適切な助言をいただいてサービスの向上に取り組んでいる。また町担当課にホーム通信や地域向け通信の発行の都度、暮らしぶりを伝えている。	町の担当課まで出向き相談したり、事業所だよりや地域向け事業所だよりを届け、利用者の様子を伝えたり、助言を得るなど、町との連携を図っている。防災無線についても話し合っている。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に応じて市町担当者と連絡を取っている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は日中玄関に鍵をかけることのデメリットは共通理解している。入居者が外に出なくなる様子や要望があればその都度一緒について行くなどの対応している。また玄関先で日向ぼっこをするときなどは開放し、自由な暮らしを支えるよう努めている。	身体拘束をしないケアについては勉強会をし、職員は理解している。家族からの要望もあり、安全面に配慮して、常時施錠しているが、職員の見守り体制がある時や、玄関先で利用者が日向ぼっこをするときなどは開放している。	・玄関を施錠しないで安全に過ごせる工夫
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員全員、身体拘束のないケアを理解しており、身体拘束ないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、運営推進会で安全性の為家族からの施錠の了解を得ている。常時鍵がかかっているが、利用者の希望にあわせ対応はしている。		
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで勉強会を実施している。職員は高齢者虐待防止に周知し、常に職員間で情報交換して不適切なケアがないように努めている。		
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、月一回のミーティングにて取り上げ、職員の認識を深め、十分に注意を払っている。見過ごす事がないように気をつけている。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会を開き、理解を深めていきたい。今後必要なときに支援できる体制をとりたい。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、定期ミーティング時に勉強会は実施しているが、まだ、不十分である。必要な時に支援できる体制がとれるように制度について定期的に学ぶ機会をもちたい。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	東棟	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明はもとより、理解していただけるよう丁寧に説明をしている。契約解消に至る場合は、利用者やご家族に十分な説明と納得をもらい、安心して退居先に移られるよう支援している。		
10	西棟	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者及び、家族に対し、重要事項を丁寧に説明し、疑問点はその場で分かりやすく対応している。契約解除に至る場合は利用者や家族に十分な説明と納得をもらい、安心して退居先に移られるよう支援している。		
11	東棟	(7) 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご家族から意見や要望を話してもらえよう心掛け、ミーティングで議題にし解決に向けて話し合い反映させている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知している。面会時や電話、手紙等でも意見や要望、苦情を聞いている。運営推進会議の場で意見が気軽に伝えられるように配慮し、不満やたくさんの意見も出ている。出された意見等について、ミーティングで検討し、解決に向けて取り組み、家族に説明し、運営に反映されている。	
11	西棟	(7) 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際には、意見や苦情を言いやすい様な雰囲気作りを心掛けている。意見等が出た場合は定期ミーティングで取り上げ、申し送りをしたりして、実践の徹底を図っている。また、苦情箱を設置している。		
12	東棟	(8) 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや必要に応じその都度意見やアイデアを聞き反映している。	日頃から職員間のコミュニケーションを図る様に心がけ、毎月のミーティングで管理者が職員の意見を聞き、管理者ミーティングで代表者に伝え、職員の意見や提案を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12	西棟	(8) 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談しやすいように、日頃からのコミュニケーションを大切にしている。また、月一回のミーティングで一人一人の意見を出し合える機会を設けている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	東棟	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう職員の資格取得に向けた支援をしたり、温みのある職場づくりを心がけている。また働きやすいように職員の要望に応じ、勤務変更にも柔軟に対応している。		
13	西棟	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する目配りをし、努力している姿には言葉として賞賛を伝えている。何事も現場職員の発案、企画、実行を尊重し、やりがいを持てるようにしている。		
14	東棟	(9) 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修にはできるだけ受講できるようにしている。また内部の研修に於いてもレポートを提出し、介護技術の向上に努めている。	内部研修は、新人研修の他、全職員がミーティング時に受講出来るようにし、レポートを提出してもらい、理解が深まる様に取り組んでいる。この一年間は、2回実施している。外部研修には参加していない。管理者の指導の基、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会の確保
14	西棟	(9) 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り研修の機会を提供している。研修後はレポートを提出し、今後の介護技術向上に努めている。		
15	東棟	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの運営推進会議に相互に出席して交流をもちながらサービスの向上に努めている。		
15	西棟	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他グループホームの運営者に出席していただき、意見交換をしたりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16	東棟	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに必ず本人に会って話しをよく聴き、本人の思いに向き合い、受け止められるよう努めている。		
16	西棟	初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、本人から思いや意向を伺い、それを受け止めることに信頼いただけるよう努めている。		
17	東棟	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに家族が困っていること、求めていることをしっかり聞き、理解しながら思いを受け止め信頼関係を築けるよう努めている。		
17	西棟	初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでにご家族が困っていること、もどめていることをしっかり聴き、不安や心配ごとを少しでもなくし、安心していただけるよう努力をしている。		
18	東棟	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、地域のケアマネジャーと連携しながら対応に努めている。		
18	西棟	初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を良く把握し、他のサービス利用を含め、情報提供を行っている。		
19	東棟	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活者という視点で、利用者の持てる力が発揮でき、自信の持てるような声かけやケアを心がけ、喜怒哀楽を共にしながら、支えあう関係に努めている。		
19	西棟	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活していく上で自信を高めるような言葉かけや働きかけをしている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	東棟	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを大切にしながら、家族の意向を確認し、一時帰宅などを働きかけ、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	西棟	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期のホームだよりで報告すると共に電話、手紙などでも本人と家族のより良い関係の支援をしている。		
21	(10) 東棟	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの住み慣れた地域にドライブに出かけ、そこで地域の人と出合って話をするこもあり、地域との関係が途切れないよう支援している。	利用者の出身地にあるお寺にお参りしたり、洋服等を買っていた店に行ってみたり、自宅の周辺に出かけたりするなど、これまでの住み慣れた地域にドライブで出かけ、地域との関係が途切れないように支援している。知人や友人の訪問もあり、ゆっくり過ごせるよう場所を提供するなど支援している。	
21	(10) 西棟	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人が来易い雰囲気作りをし、面会時などは、本人と静かにゆっくり過ごせる場所を提供している、		
22	東棟	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に気の合う利用者同士の場面づくりや、みんなで楽しめるレクリエーションなどでも関わり、支え合えるような支援をしている。		
22	西棟	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体レクや個別レクを通し、利用者同士関わりあえる様にしている。また、日常的に職員が間に入り、声掛け合いながら利用者同士支援出来る様馴染みの関係が作れるようにしている。		
23	東棟	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の状態の悪化により長期入院した場合などサービス利用が終了した時には、退居先を訪問して関係を断ち切らないよう心がけている。		
23	西棟	関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、退去先を訪問し、関係を断ち切らないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から一人ひとりの関わりの中で、本人の思いや意向の把握に努めている。	日常生活の中で、利用者の言葉に耳を傾け、気づいた事を生活記録に記録し、思いや意向の把握に努め、職員間で話し合っている。入浴時や夜間に、利用者と職員が1対1になった時には、ゆっくり話を聞き、一人ひとりの思いや意向を把握しようと努めている。困難な場合は、入居時のアセスメントや家族から聞き取り、本人本位に検討している。	
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で気付いたことを職員同士で情報を共有し、それを基に本人の満足できるような対応を工夫している。		
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や過去の情報は、折に触れ本人の日々の語りの中や、家族や知人の訪問時に聴いたりしながら把握している。		
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時及び入所後も必要時には、本人及び家族より、情報収集し把握している。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の生活の流れや体調の変化、できること、できる可能性に着目しながら、本人の全体像を把握するようにしている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活の流れや、体調変化、出来る事、出来る可能性にも着目しながら、本人の全体像を把握している。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12) 東棟	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の視点に立ち、その人らしく生活できるように必要な支援を盛り込み、状態が変化した場合は期間終了前でも見直し、検討して再作成している。	月1回のミーティング時にケアカンファレンスを行い、本人の思い、家族の意見や要望、往診時に聞いた医師の意見等を参考に話し合い、それぞれの意見や職員の意見を反映して介護計画を作成している。モニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しや、状態が変化した場合は、その都度見直している。	
27	(12) 西棟	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来訪時、利用者の様子や状況を伝え、家族の要望や意見を取り入れ、毎月一回のユニットのミーティングを行い、介護計画を作成している。		
28	東棟	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や本人の発した言葉は生活記録に介護健康記録は医療記録としてそれぞれ個別にファイルしている。記録で状態の変化など情報の共有を徹底している。		
28	西棟	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や本人が発した言葉は、生活記録に記録している。身体的、精神面共職員間でケアにずれが生じないように申し送りノートを活用し統一している。		
29	東棟	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、病院の通院介助や、理美容、図書館利用など柔軟な支援をしている。		
29	西棟	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援をしている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	東棟	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度はインフルエンザ感染防止のためボランティアの訪問はなかったが、日頃から地域の方々に協力を働きかけている。また図書館を利用したり、運営推進会議においては民生委員さんとの意見交換もしている。		
30	西棟	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の訪問や消防訓練への地域の協力の働きかをしている。		
31	東棟	(13) かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他に、本人や家族の希望のかかりつけ医で医療が受けられるように支援している。家族が遠方などで同行が難しい場合は職員が代行通院介助をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医療機関で適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医への受診は家族の希望や、家族の同行が不可能な時など、状況に応じて職員が付き添いや送迎の支援をしている。2週間に1回、協力医による往診もあり、受診結果等について家族に伝えている。	
31	西棟	(13) かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されたかかりつけ医を最優先している。家族の意向や状況に応じて受診や往診等の支援を行なっている。隔週、往診来所する協力医院と密に連携を図っている。また、受診結果については、家族に報告をしている。		
32	東棟	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員を配置して、日々の健康管理や状態の変化を相談、対応できるように連携をとっている。また看護師交換記録により、密な情報交換と健康管理ができるように調整している。		
32	西棟	看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護職員を配置しており、日々の健康管理や状態を伝えている。また、看護連絡ノートを作成し、気付いた事を記入し見てもらい、相談し指示を受けている。また、緊急時は電話連絡にて指示を受けている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	東棟	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、病院や家族と回復状況など情報交換をしながら、早期に退院できるように連携している。		
33	西棟	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、情報提供書を行なうと共に、利用者の特性を踏まえ、入院後の心身の状況把握と早期退院の為、医療機関を訪問し関係者との情報交換で退院時期の調整を行っている。		
34	(14) 東棟	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けたチームとしての支援にはまだ取り組んではいないが、今後の状況の変化に備えて、安心と納得を得られるよう本人・家族と話し合うことはある。	重度化対応指針があり、入居時に家族に説明して同意書を得ている。重度化した場合は状況の変化に応じて本人、家族、主治医、関係者と話し合い方針を共有している。	
34	(14) 西棟	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合について主治医、看護師、家族と話し合うことはある。		
35	(15) 東棟	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント・アクシデント報告書を作成し、再発防止のためにミーティングで今後の対応方法など検討している。	インシデント・アクシデント報告書に記録し、対応を話し合い、一人ひとりの状態に応じて介護計画に反映させ、事故防止に努めている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	定期的な訓練の実施
35	(15) 西棟	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント、アクシデント報告書を作成し、職員で共有すると共に、対応方法など検討している。また、家族への事故の状況説明を報告をしている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成して、年2回昼夜間帯を想定した避難訓練を行っている。また運営推進会議で自治会長・地域住民代表の方に万が一に際し協力をお願いしている。	災害対策マニュアルがあり、年2回消防避難訓練(昼夜間想定)を実施している。運営推進会議で地域の協力を依頼している。スプリンクラーを設置している。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、防災マニュアルを策定し、年2回は消防訓練を行っている。職員の緊急連絡網が有り、非常時の協力体制が出来ている。また、地域の方に協力してもらえるように、運営推進会議にて働きかけている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけるような言葉かけや職員側の視点での強制などないよう一人ひとりの尊厳を大切にされた対応を心がけている。	利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保に努め、言葉かけや対応に配慮している。気になる言葉かけに気づいた時は管理者が助言指導している。個人記録等は保管場所を決め、適切に保管している。	
37	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の生活暦や性格を踏まえ、その方にとって適切な言葉掛けや、対応をする様心掛けています。個人情報に関する書類は保管場所を定めています。		
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、思いを表すことができるような声かけを心がけ、本人が決める場面をつくっている。		
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と話し合い理解度に合わせて説明し、本人が決める場面作りをしている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	東棟	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にした介護を心がけ、職員側の決まりや都合だけを優先することなく、一人ひとりのペースを大切にした個別ケアも支援している。		
39	西棟	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方が自由に生活出来る様に声掛け、見守りを行い、「思い」を受け止めて支援出来る様努めている。		
40	東棟	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい個性や好みは尊重し、欲しい衣服の買い物に行ったり、またカットや毛染めの要望があればなじみの美容院へ行けるよう支援している。		
40	西棟	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分で決めて着ているが、支援の必要な方は、職員の方で対応している。また、近所の理容、美容院が出張営業で来所され、また、利用者の希望により、本人の望む店に行けるようにも支援している。		
41	(18) 東棟	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の体調に合わせて、日常的に利用者のできる範囲で職員と一緒に準備や片付けをしている。また一緒に採った山菜を使って調理し食事を楽しんでいる。	法人の栄養士が立てた献立を活用して、三食とも事業所で食事づくりをしている。栄養バランスのとれた季節感のある食事を提供している。イベントの食事は利用者と一緒に献立を立て、食材の買い物から、調理をしている。お弁当を作り外に出かけて食べることもある。職員も同じものを食べながら会話し、食事が楽しめるように支援している。	
41	(18) 西棟	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に利用者と職員と一緒に準備や食事の片付けをしている。(歩行が困難な方は、職員の方で下膳し、歩ける方は御本人でもらっている。)		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	東棟	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量は毎回記録し、把握している。栄養士によるカロリー計算をして、食事量も個別調整している。食事おやつ以外にも折に触れて、水分量の確保に努めている。		
42	西棟	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士によりカロリー計算ができていて食事量も個別に調整している。また、生活内容チェック表を通してその日の全職員が食事量の過不足について把握しケアしている。		
43	東棟	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には緑茶でのうがいをしている。一人ひとりの力に応じた歯磨きや義歯洗浄の声かけや介助をしている。		
43	西棟	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア(歯磨き、うがい、義歯の手入れ)は食後及び就寝前に行なっている。(必要な方には介助している。)		
44	(19) 東棟	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、さりげない声かけ誘導を行っている。リハビリパンツ・パットを使用している、トイレで排泄できるよう誘導している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりの状態に応じて声かけや誘導をして、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44	(19) 西棟	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導をしている。また個々の状態に応じた対応をしながら、排泄の自立を目指している。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	東棟	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し、日課の体操やレクリエーション、散歩で自然排便につながるよう取り組み、緩下剤でも調整している。また便秘予防に向けてメニューも工夫している。		
45	西棟	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操、散歩等適度に身体を動かす働き掛けを行なっている。医師、看護師に相談し、服薬、生活面での指導を受けている。		
46	東棟	(20) 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜勤者が一人のため夜間の入浴対応はできないが、利用者の希望を尊重しながら午前・午後に入浴を楽しめるようにしている。また入浴を拒む利用者には言葉かけや対応を工夫している。	毎日、午前(11時から昼食前)と午後(1時から3時30分)に入浴が可能で、利用者の希望を尊重して、状態やタイミングに合わせて入浴出来るように支援している。入浴の順番にトラブルがないように配慮し、工夫している。	
46	西棟	(20) 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルチェックその他、総合的に体調を把握した上で入浴を決定している。順番に不満がない様に工夫している。		
47	東棟	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況を把握し、睡眠リズムに乱れがある時は、温かい飲み物で入眠を誘ったり、安心して心地よく眠れるよう声かけをしている。		
47	西棟	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、夜間の不安時などは傾聴、気分転換に温かい飲み物を提供したり、安心して眠れるような声かけをするなどの支援をしている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	東棟	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の目的や副作用については表にして職員は把握している。服薬時には本人に直接手渡し、服薬の確認をしている。		
48	西棟	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用についてしっかり把握できている。また服薬時には職員が直接手渡し服薬の確認をしている。必要な情報は記録に残し、医師、看護師と連携を図っている。		
49	東棟	(21) 活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や過去の情報を考慮しながら、ホームでの生活に楽しみや張り合いが持てるように支援している。	図書館から本を借りての読書や、新聞購読、ぬり絵、縫い物、書道、歌、踊り、茶道、生け花、工作、食事の準備、後片づけ、買い物、散歩など、一人ひとりの楽しみや活躍の場面づくりをし、喜びや張り合いのある暮らしが出来るように支援している。	
49	西棟	(21) 活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味などを考慮しながら、得意分野を探し、発揮できる場を設定できるよう努めている。		
50	東棟	(22) 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブに出かける機会は多く、本人の希望に添って個別対応もしている。また家族の協力を得ながら遠出の外出など楽しみが持てるよう支援している。	散歩や買い物、外食などの支援や、これまで生活していた場所に出かけたり、季節毎の花見など、ドライブを楽しんだり、利用者の希望にそって戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50	西棟	(22) 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブに出掛ける機会は多い。また、希望に添って個別にも対応している。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	東棟	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が不可能な利用者がほとんどであり、現金を所持していないが、家族、本人の要望により力量のある利用者についてはお金を所持し使えるようにして職員と一緒に金銭出納簿に記入している。		
51	西棟	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金を所持する事で、安心される方には、家族と相談の上所持して頂いている。また、御本人の要望があり、所持出来る能力に応じて管理できるように支援している。		
52	東棟	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出したり、本人からの要望があれば電話や手紙の支援をしている。また必要に応じて個人情報に配慮しながら宛名書きなどの代行をしている。		
52	西棟	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時電話の利用や手紙の取次ぎを支援している。また、直筆の年賀状をご家族へお送りしている。電話の取次ぎ時間を、配慮しながら支援をし、手紙も同様に配慮しながら支援している。		
53	(23) 東棟	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からの調理の音や匂い、また季節の花を飾ったり、思い出の写真を掲示するなど、四季折々の五感に働きかける様々な刺激を採り入れた生活空間を大切にしている。	テーブルに季節の花を生け、壁に行事での写真や季節に合わせた飾りをして、利用者が季節感を感じられるようにしている。台所からの調理の音や匂いで食欲増加につながったり、生活感が感じられ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53	(23) 西棟	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を心掛け、花や季節にあったディスプレイを施こし、利用者がその場にいたいと思う環境作りに努めている。		

グループホーム ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	東棟	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやデッキのベンチ、小スペースの畳コーナーで独りで過ごしたり、気の合った利用者同士で語ったりする居場所がある。		
54	西棟	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいて定期的又は、必要時に席替えをして利用者同士のコミュニケーションを図っている。個室も完備され、リビングと居室を自由に行き来されている。		
55	東棟	(24) 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた小物や思い出の写真などを本人と相談しながら飾り、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	整理ダンス、テレビ、洋服かけ、椅子、仏壇などを持ち込み、家族の写真、花、ぬいぐるみ、自分でつくった作品などを飾り、安心して居心地良く過ごせるように工夫している。	
55	西棟	(24) 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションでご本人が作成された物を飾ったり、ご家族、ご本人が持参された鉢植え、写真やプレゼントなど家庭的な雰囲気の中で過ごされている。		
56	東棟	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全で自立した生活が送れるよう屋内各所に手すりなどを設置している。また居室、風呂、トイレ入り口には親しみのある絵札をかけて混乱や失敗を防ぐよう表示している		
56	西棟	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に努め、混乱や失敗を防ぐ為に「トイレ、居室に「トイレ」(利用者名)」などと表示し、過ごしやすく工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日：平成 22年 9月 6日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	外部研修にはできるだけ受講できる機会を持つようにしているが、前年度は冬季間での受講予定者2名が体調不良により断念し、外部研修の参加者はなし。内部研修は2回実施している。	山口県ひとつくり財団社会福祉研修部主催による各研修や認知症を支える会連合会主催の研修など外部研修への受講参加を目標とする。またミーティング時にも介護の質向上のための必要な研修の機会をできるだけ持つ。	今年度は外部評価実施以前より研修受講の参加を目標としていた。老人福祉施設中堅職員研修3名参加、山口県認知症を支える会主催認知症地域相談員養成研修2名参加、認知症高齢者を考える集い2名参加している。内部研修として介護の質向上のための研修を全員参加のミーティング時(8/2)に行っている。今後もテーマを設けて数回予定している。	6ヶ月
2	35	以前消防署の職員による救急蘇生法などの指導を受けたことはあるが、定期的な訓練はしていない。事故発生時に備えて全職員が定期的な訓練で実践力を身につける必要がある。	年2回消防・避難訓練を全職員参加のもと実施しているが、その機会を利用して定期的に応急手当や初期対応の訓練をする。	毎年4月と10月の全職員参加の消防・避難訓練時に実施を予定している。運営推進会議委員の地域代表である消防署員の方や看護師職員の指導による応急手当や初期対応の定期的な訓練で緊急時に備えた実践力を身につける。	12か別
3	7	全職員は日中玄関に鍵をかけることのデメリットは共通理解している。玄関が構造上死角にあり、安全のため自由に出て行くことはできないが、外に出たくなる様子が伺えたり、本人の要望があればその都度対応している。	日中の安全な玄関の開放は現時点では様々な理由により困難がある。日向ぼっこや玄関先での散歩など職員の見守りが十分であると判断できる時には一時的に開放する。	身体拘束をしないケアについてはミーティングで再度勉強会を持つ予定である。日向ぼっこや玄関先での散歩など安全を確保しながら一時的に開放する。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。